

日本救急医療財団の活動報告

橋本 昌男 事務局長

2024年10月中旬から12月上旬までの財団の活動について報告します。

研修研究部門に関する報告

甲斐 龍也 研修研究部

1. 令和6年度救急医療業務実地修練等研修事業について

○病院前医療体制における指導医等研修（初級者）

令和6年11月7日（木）から11月8日（金）までの2日間、オンライン（Zoom）にて病院前医療体制における指導医等研修（初級者）を開催しました。

受講対象者は、3年以上の救急臨床歴があり、①これからMCを始める医師、②現在も救急隊員への指導・助言を行っており、オンラインでも指示をしている医師、③救急救命士・救急隊員の病院実習に関して院内コーディネーター役となる医師、④二次救急医療機関において救急医療を担当している医師であり、全国から118名の受講者が参加されました。

研修の内容は、①救急医療とメディカルコントロール、②救急業務の担い手と医師の業務、③メディカルコントロールに関わる組織と法的根拠、④メディカルコントロールの現状と課題（WS）、⑤オンラインで行う指示、指導・助言（講義・WS）、⑥医師が出動する医療でのMC、⑦プロトコールの読み方・使い方（講義・WS）、⑧検証とフィードバック（講義・WS）、⑨病院実習における教育（講義・WS）を行い、ワークショップにおいては、Zoomのブレイクアウト機能を使用し、118名を15班に分け、各班でディスカッションを行いました。また、事前に各班にリーダー役の受講者を指名して実施したことにより、各課題に対する活発な意見交換等と質疑が交わされ、受講者相互間の交流が深められ大変有意義な研修となりました。

反省点としては、講師が勤務病院からのリモート参加の講義となり、講師と受講者双方がリモート参加という状況が発生したことです。今後は、講師の日程調整をより早期に行い、配信会場にお越しいただけるよう事務局として改善に努めていく所存です。

○保健師等救急医療等指導者講習会

令和6年11月28日(木)から11月29日(金)までの2日間、都内会場に参集して集合研修による保健師等救急医療等指導者講習会を開催しました。

本講習会は、保健所等の行政機関又は公共機関に勤務する保健師等を対象とし、地域における救急蘇生法等(乳児・小児の応急手当等を含む)に関する普及方策等の企画・運営を行う者の養成を図ることを目的に全国から18名の受講者が参加されました。

講習会の内容は、①地域包括ケアシステムと救急医療、②災害医療における保健所の役割、③災害医療コーディネーターとの連携における保健師等の役割(WS)、④新興感染症発生・まん延時の対策(WS)、⑤事故予防(総論)、(各論)、⑥乳児に対する心肺蘇生法指導ツールと実習、⑦心停止事象が公衆衛生に及ぼす影響と救命の連鎖、⑧学校保健と救急蘇生法指導、⑨母子保健と救急蘇生法指導(心停止予防・事故防止を含む)(WS)でした。

久しぶりの集合研修ということで、ワークショップにおいては、活発な意見交換と受講者自身による体験を交えた議論により受講者相互間の交流が深められ、実習では、班別で心臓マッサージの正確さ持続力を競いながら、大変有意義な講習会となりました。

○病院前医療体制における救急救命士業務実地修練

令和6年12月9日(月)から12月13日(金)までの5日間、都内会場に参集し集合研修による病院前医療体制における救急救命士業務実地修練を開催しました。

受講対象者は、(1)消防機関等(医療機関は除く)において、現に救急救命士として救急業務に従事している者、(2)現に救急医療に従事している者であって、救急救命士免許を取得している者、であり全国から49名が参加しました。

研修プログラムでは、①救急救命士制度の将来像(講義・WS)、②周産期、母子救急疾患(講義)、③意識障害、脳卒中(講義)、④症状・徴候 観察のコツ(講義、WS)、⑤心肺停止前の特定行為について(講義・WS)、⑥精神科的問題を持つ傷病者へのアプローチ(WS)、⑦呼吸不全、重症喘息(講義)、⑧循環不全、急性冠症候群(講義)、⑨小児救急疾患(講義)、⑩外傷、熱傷、電撃傷(講義)、⑪急性中毒、溺水、熱中症、低体温(講義)、⑫安全な救急業務管理(危機管理)(WS)、⑬MCにかかる諸業務の管理・運営(WS)、⑭緊急度判定の理論と実践(WS)、を実施し、また、病院前医療体制における指導医等研修(上級者)受講者と合同で開催した研修として⑮我が国の救急医療体制と病院前医療体制※現状と課題を含む(講義)、⑯通信指令業務について(講義)、⑰通信指令業務の事後検証について(講義・WS)、⑱局地災害における消防活動(講義)、⑲局地災害時のMCに関する問題の理解(WS)を実施しました。

久しぶりの集合研修ということで、ワークショップでは8班に分かれ、活発な意見交換と受講者自身による体験を通して受講者相互間での連帯感が深められ、特に病院前医療体制における指導医等研修(上級者)受講者と合同で行われた講義・WSでは救急救命士と医師による活発な意見交換がなされ、大変有意義な研修会となりました。

○病院前医療体制における指導医等研修（上級者）

令和6年12月11日（水）から12月13日（金）までの3日間、都内会場に参集し集合研修による病院前医療体制における指導医等研修（上級者）を実施しました。

受講対象者は、5年以上の救急臨床歴があり、(1) 救急科専門医やそれと同等の資格を有する医師、(2) 2年以上の地域メディカルコントロール担当医として経験を積んだ医師、(3) 地域においてBLS、ACLS、JPTEC、JATECなどの講習会や救急隊教育において指導歴がある医師、の全てに該当する医師であり、全国から37名が参加しました。

研修プログラムでは、①救急に関する消防の取り組み（講義）、②「搬送と受け入れ実施基準と緊急度判定（WS）、③救急医療体制にかかる調整（WS）、④MC及び指導医の今後の展開（WS）、⑤生涯教育システムの構築（講義）、⑥救急救命士等に対する教育（講義、WS）を実施し、また、救急救命士業務実地修練受講者と合同で開催した研修では⑦我が国の救急医療体制と病院前医療体制※現状と課題を含む（講義）、⑧通信指令業務について（講義）、⑨通信指令業務の事後検証について（講義・WS）、⑩局地災害における消防活動（講義）、⑪局地災害時のMCに関する問題の理解（WS）を実施しました。

久しぶりの集合研修ということで、ワークショップにおいては、6班に分かれ、活発な意見交換と受講者自身による体験を通して受講者相互間での連帯感が深められ、特に病院前医療体制における救急救命士業務実地修練受講者と合同で行われた講義・WSでは医師と救急救命士による活発な意見交換がなされ、大変有意義な研修会となりました。

反省点としては、年末開催の研修会の受講者決定が募集から短期間であったこと、受講者決定が研修日程の直前期であったことから、多忙な病院勤務医師にとって、受講申し込みが日程的に厳しくなったことです。今後は、受講応募案内時期の早期化に向けて、厚生労働省への協力体制をより強化していく所存です。

2. AEDの内部データ利用・検証に関する作業部会（分析・検証）について

AEDの内部データ利用・検証に関する作業部会については、令和3年度に取り纏められた報告書に基づき、実際のAED使用事例の報告があった内部データの分析・検証体制の整備・実際のAED内部データの分析・検証を行うため、令和4年10月17日（第1回）から検討を行っています。

12月17日（月）に第9回同作業部会を開催しました。オートショックAEDと従来型AEDの実際の内部データについて分析し、特に音声データを中心に検証に取り組みました。会議では各委員から医学的な観点に基づく意見交換がなされ、引き続き内部データの分析・検証について事例検討を行うこととしています。